

下関市指定無形文化財

神事 龜山能

場所

令和5年10月28日(土)
午前11時 神事 翁渡式
午後1時30分 龜山能
下関市之町一丁 電話080-3179-1444

正午 開場

龜山八幡宮

拝観料 四,〇〇〇円

拝観券は龜山八幡宮、ブレイガイド／シーモール4F
下関商業開発・シーモール1F「ラン」。市民会館、
能楽関係者宅にあります。

主催
後援

龜山能楽会
下関市・下関市教育委員会

下関市文化振興財團
下関商工會議所・下関市文化協会

下関観光コンベンション協会
KRY山口放送・テレビ山口
Yao!山口朝日放送

読売新聞西部本社・朝日新聞社
毎日新聞社・山口新聞社
J:COM下関(順不同)

狂言(大蔵流)「寝音曲」
仕舞(金剛流)
能(金剛流)
「俊寛」
しゅん かん

特別協賛
カミラ・ピエオの撮影はできません

ごあいさつ

下関市指定無形文化財・龜山能は西日

本有数の神事能で、豊臣秀吉が奉納して以来、四百三十数年故実正しく格式高く伝えられ、龜山八幡宮秋季例大祭を式日として厳粛盛大に催されています。

本年は金剛流・大藏流により奉納されます。

関係各位のご尽瘁と、重要無形文化財能楽（総合指定）保持者の能楽師の方々により催能致します。

皆さまお誘い合わせのうえ、秋のひととき幽玄なる龜山能をご観賞下さい。

神 歌

（翁）向井 弘記

（千歳）湯川 棱

（地謡）

谷岡

安田

和夫

修司

豊嶋

晃嗣

林

真

木村 次生

神事翁渡式 〈御神前 午前十一時〉

俊

寢音曲

（狂言・大藏流）

寝音曲

（能・金剛流）

ね

（休憩二十分）

「本日の能について」
（解説）

宇高 龍成

（仕舞・金剛流）

島 勲明

貞助

日高 雅彦

宇高 德成

（太郎冠者）

廣田 幸穂

（主役）

中島 清幸

天鼓 山田 伊純

日高 雅彦

宇高 德成

（後見）秋吉 英二

日高 雅彦

宇高 德成

（成經）湯川 稔
（康頼）向井 弘記
（俊寛）豊嶋 晃嗣

（赦免使）江崎欽次郎
（太鼓）白坂 保行
（小鼓）幸 正佳
（笛）森田 光次

（船頭）河原 康生
（後見）廣田 幸穂
（地謡）林 憲明
（後見）廣田 幸穂
（後見）安田 和夫
（後見）木村 真一郎
（後見）山田 宇高
（後見）伊純 龍成
（後見）伊純 龍成
（後見）伊純 龍成

狂言 寝音曲（ねおんぎょく）

あらすじ

前夜はじめて太郎冠者（シテ）の謡を立ち聞いた主人が、翌日さっそく呼び出し、聞きたいと望む。冠者は素面ではうたえないと主人の酌で酒を飲み、次には妻の膝枕でなければ声が出ないという。しかし、せめてもと主人が膝を貸すので、しかたなく短い謡をうたう。

喜んだ主人が起こすと故意にうたいにくそうにしていた冠者は、主人の誘いにだまされて朗々とうたい、舞も舞う。うたい終わって冠者は、自分が起きてうたつてしまつたことに気づき、あわてて部屋を出て行く。

能 俊 寛（しゅんかん）

平家撲滅の陰謀が発覚して俊寛と康頼・成經の三人は九州薩摩南方の鬼界が島に流された。高倉天皇の中宮徳子（平清盛の娘）ご産の御祈りのために大赦があり、康頼・成經が赦され、赦免の使が都を発つ。俊寛（シテ）と康頼（ツレ）・成經（ツレ）の三人が谷の水を酒として飲み交わし、昔の栄華をしおび今の境涯を嘆くところへ、赦免の使（ワキ）が到着する。赦免状に俊寛の名は記されていない。俊寛は、罪も同じ罪、配所も同じ配所なのに、なぜ自分が赦されないのかと悲しみに沈む。せめて薩摩まででもと哀願するが船人は押し切つて舟を出す。絶望した俊寛を残し舟影も人影も消えてゆく。